

 いわみざわ公園バロ園 www.iwamizawa-park.com

クレマチスの魅力について

クレマチスとテッセンは同じですよと質問されます。日本では古くからクレマチス全般を「テッセン」「カザクルマ」と呼ぶ事がありました。海外に渡ったクレマチスは、大正時代に里帰りして育種家の方々により多様な品種となり、1990年代の終わり頃から日本の育種家による品種も世界に注目されるようになりました。世界的に見ればクレマチスの育種をリードしていたのはイギリスですが、2000年代に入ると日本らしい風情のある品種が海外で人気を呼びました。多品種のクレマチスが入手しやすくなり、バラとクレマチスと宿根草ガーデンに憧れる花好きさんのセレクトは魅力的です。地際まで切り戻しが出来て冬の作業が無いクレマチス人気は続きます。(たかはし)

畑の片付け

新型コロナウィルスで自粛規制が発令されて、人の集まりや不要不急の外出制限までされた1年でした。庭先や空き地利用の花壇づくりや家庭菜園で日々楽しんでいる方は、いつもの年より花壇や菜園場に愛情を注ぎ楽しまれた事と思いますが、花ガラや野菜くずを畑にそのまま放置はしていませんよね。放置された花ガラや野菜くずには虫の卵や死骸がいっぱいついていて卵は土中で幼虫となり、死骸はカビ菌となって翌年の花や野菜の根を傷めますので、必ず片付けることをお勧めします。よく土に埋めたい肥にするという方もいますが、春先までに完全に堆肥化する保証もなく、また虫の卵や死骸がカビ菌発生の温床となる可能性がありますのでお勧めできません。畑を綺麗に片付けて花壇はそのままでも良いのですが、菜園は荒く耕し天地返しを行ってください。(ながやす)

堆肥作り・1

今季は堆肥作りについての相談が何件もありました。家の生ゴミから堆肥を作る事、草から堆肥を作る事。今の時代循環型の庭作りを考える事はとても大切な事だと思います。今年はもう庭仕事も終わりましたが来年こそゆくりと庭での堆肥作りから始めてください。庭木や草花、除草した草を適当な長さに切って庭の隅にコーナーを作って積み重ねます。古い鉢の土、枯れた植物、落ち葉なども。材料が出たらどんどん重ねてシートで覆っておきます。冬前には土をかけてよく踏んでシートをかけておきます。これだけでOK。いつかは様々な土壌を作る菌や虫の力で有機物の多い土ができます。ぬかをいれる？とか切り返すとか色々あるにはあるけれど、基本は植物を土に返してあげるという事。各庭で状況は違うので「何ヶ月でできるのですか？」などガツガツせず自然に任せるゆとりが欲しいものです。楽しくなってきたら早く良い

堆肥が作れるようになりたいと思ったら勉強してください。2020年はコロナ禍でガーデニングブームだったとメディアは伝えていますが、外へと体験を広げることが困難になり、自宅で楽しめる事の1つとしてガーデニングにたどり着いた人も増えたのでしょうか。どうぞ皆様で健康でありますように。来年はぜひ堆肥作りも楽しんでください。生ゴミ堆肥のことはまた次回。(きのした)

今月の便り



ツルアジサイとイワガラミ

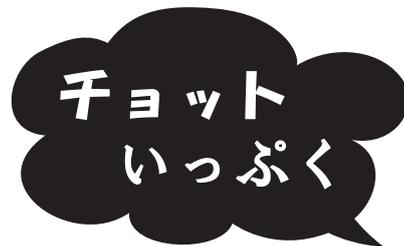
どちらもブナ、ミズナラ、ダケカンバなどの幹を這い、気根で張り付いてよじ登るツル性のアジサイの仲間です。冷涼な気候を好む北方系の種で、東北や北海道の山に多く見られます。アジサイとおなじように白い装飾花と多数の両性花をつけます。ツルアジサイは時に高さ10m以上に登り、幹が見えなくなるほど覆い尽くして見事な花を咲かせることもあります。イワガラミはそれよりも花は少ないようです。見分け方はツルアジサイの白いガク片は4枚で一般的なアジサイと一緒にいますがイワガラミは1枚で遠くから見ても白いガク片が風でヒラヒラして見えます。冬になって広葉樹の葉が落ちると幹に張り付いているツルがよく見えます。どちらも6～7月に咲いた花は落ちずに残りアジサイのようにドライフラワーになってツルにくっついていますが春が近くなってくると雪の上に落ちていたりするので持ち帰り飾ったりして楽しんでいきます。(いとう)

存在感を増す常緑樹

辺りが白くなると寒さの厳しい北海道に適した常緑の針葉樹が目立つようになります。世間ではマツ、イチイ、モミ、トウヒの仲間をまとめて「松」と呼び、これにヒバの仲間も入れる人もいます。それと古今東西、宗教的行事には様々な常緑性広葉樹も欠かせません。色彩館内にあるヒイラギ、サカキ、ヤブツバキもそうですね。神聖、生命、呪力を暗示し、崇拜の対象とされる常緑樹が主役となる季節。新型コロナのお祓(はら)いに役立ってもらえないかと、思わず神頼みしたくなるこのごろです。(かわはら)

ナンバン? トウガラシ?

うどんやそばを食べるときにパッパッと振りかけて食べる赤くて辛い物を北海道人は「ナンバン」と言います。全国各地で異なるようで、九州の一部や信州地方でよく耳にしたのですが、私たちの言うナンバンを「コショウ」と呼んでいました。また、ほとんどの地域では「トウガラシ」と呼ぶようです。なぜ、トウガラシをコショウと言うのか調べると、原因はコロンブスにあるようです。インドにコショウを求めて旅立ったコロンブスが、辿り着いた先で手に入れた「唐辛子」のことをコショウと勘違いし、それをポルトガルに持ち帰り、後年それがポルトガルから九州地方に伝来したときに唐辛子のことを「南蛮からきたコショウ」ということで南蛮胡椒と呼ばれていたそうなんです。信州の安曇野地方で青唐辛子のことを「胡椒」と呼ぶようで、これはおそらく九州からこの地方へ移住した住民から始まった習慣のようです。また、北海道でナンバンと言うのは、九州で「南蛮胡椒」と言われていたのが伝わって、北海道などでも唐辛子で「ナンバン」と呼ばれています。因みに、時代劇を見ていると『お代官さま、こちらが南蛮渡来の品でござりまする・・・』なんて言うセリフを時々耳にします。昔は『南蛮』とは、『外国』って言う意味。唐辛子は外国から入ってきたので『南蛮唐辛子』と言われてたらしいけど、現代では『唐辛子』と言うのが普通なんですね。北海道人はやっぱりナンバンかな・・・



～色彩館からのお願い～ この時期になると、大きくなりすぎた・殖えすぎたなどの理由で、「うちではもう育てられないから植物を引き取ってほしい」という内容のお問合せが急増します。大変申し訳ございませんが、**当館では植物の引き受けを一切行っておりません。**あらかじめご了承くださいませ。

ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)



第七十八回

ダマスクローズ
イスパハン

Ispahan

作出国：不明
作出者：不明
作出年：1827 年以前
ハーディネスゾーン：Z3
一季咲き性
交配：不明

イスパハンは年に一度しか咲かない一季咲きです。のクォーターロゼット咲きで、咲き進むとポンポン咲きに変化します。直径 8 cm ほどですが、大輪のように華やかで美しい花形をしています。鮮やかなミドルピンクの花は、中心から外側に向けてほんのり浮かぶグラデーションがかかり、美しいお顔をより華やかにしています。強香で良い香りなのもこの品種の特徴です。さすがダマスクローズ系統です。カナダのモントリオール植物園や、アメリカのロングウッドガーデンでのテストにおいて良い結果を残しており、耐病性はお墨付きです。また、ハーディネスゾーン 3 (約 -40 ~ -35 度) で、耐寒性も問題ないでしょう。樹勢が非常に強く、よく伸び、トゲも少ないためつるバラのように扱うことができます。オールドローズは切り戻すと樹形が乱れる…なんて頻繁に書いていますが、この品種は早めに切り戻すことで枝の長さを調整することができます。とっても扱いやすい品種のひとつです。

イスパハンと聞いて思い出すのは、花より団子でお菓子のほうだと思えますが、イランの都市名に由来します。16 世紀ごろから発展をし、訪れたヨーロッパ人は大変美しく反映している街に驚いたそうです。

「イスパハンは世界の半分」「イランの真珠」などと称されています。もしかして、イスパハンの街並みの美しさに魅了されてそんな名前をつけたのでは…！と勝手に妄想していましたが、実は中東地域ってバラの生産が盛んなのです。ダマスクの生産はブルガリアが有名ですが、原産地は中東地域で、語源はシリアのダマスカスです。作出国は不明ですが、イスパハンで生産されているバラをヨーロッパに持ち込んで土地の名で呼んだ、と考えるほうが妥当な気がします。香りが良く華やかなイスパハンはヨーロッパ貴族の女性たちにとっても愛されていたようで、Pompon des Princes (プリンセスのポンポン) という別名もあります。さて、お菓子のほうにも触れておきましょう。濃いピンクのマカロン生地、まばゆいほど見た目が圧倒的女子力！なお菓子です。マカロン以外にもアイスや紅茶、クロワッサンなどにアレンジもされているようですが、濃いピンク、ライチ、フランポワーズ、バラの香りは共通項のようです。バラの香りが入っているので、きっとこの品種から着想を得てできたお菓子なのでしょうね。このバラの開花期に、ピエールエルメさんの高級イスパハンを食べ食べ、贅沢な花見をしてみたいものです。

今月の市民園芸講座のご案内



- 12月6日(日) 13:00~15:00
折り紙でバラをつくろう 初級
料金:無料 定員:15名 講師:バラ園スタッフ
- 12月26日(土) 13:00~15:00
新春を迎える華やかアレンジメント
料金:3,000円 定員:18名
講師:秋元 千秋さん フラワーデザイナー
- 1月11日(月・祝) 13:00~15:00
折り紙でバラをつくろう 中級
料金:無料 定員:15名 講師:バラ園スタッフ
- 1月24日(日) 13:00~15:00
飾ってたのしい植物画~観葉植物編~
料金:1,000円 定員:10名
講師:木下 京子さん フラワーマスター

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。
電話:0126-25-6111
ホームページ:<http://www.iwamizawa-park.com/>

新型コロナウイルス感染防止策として、以下の点についてご了承ください。

- × マスクの着用がない方
- × 37.0℃以上の熱がある方

上記に該当する方は受講をご遠慮いただいております。

- ・事前申し込み無しに当日に飛び入り参加される方は、定員制限などの関係から受講をお断りさせていただく場合がございます。
- ・密集を避けるため、各講座の定員につきましては、予告なく変更する場合がございます。
- ・換気の為、2方向の窓・扉を開放いたします。暖かい格好でお越しく下さい。
- ・密接を避けるため、講座中の私語は謹んでいただきますようお願いいたします。